

学校だより 2月号

令和7年1月31日(金)

「誇・光・力」 錦江中!



あやま あらた これ あやまち い 過ちて改めざる，是を過ちと謂う

校長 平國 弘明

24日金曜日午後に、新入生入学説明会を本校で行い、3小学校から36名の6年生とその保護者、担任の先生方が来校された。校内や授業の見学、職員による学校生活についての大まかな説明、事前に寄せてもらった6年生からの質問に生徒会役員が応えるなどの内容で、1時間20分程で終了した。その後は、業者さんによる制服やシューズなどの採寸、その購入手続きなどが行われた。6年生の様子を見ると、不安もあろうが、中学校への入学を楽しみにしていることの方が大きいように見受けられた。これから新入生を迎えるまでの2か月、準備をしっかりと進めていきたい。1、2年も新入生を迎える先輩としてのあるべき姿を見せられるよう準備していこう。



今回の入学説明会
の一コマ

さて、仕事や勉強、人との付き合いなどで、失敗や間違いを犯してしまったことはないだろうか。よかれと思って行ったことが、よくない結果となることもある。そんなときに、あなたはどのように対処する(してきた)だろうか。

今から2500年ほど前の古代中国の思想家、孔子(こうし)は、論語(ろんご:孔子が話したことを、その弟子たちがまとめた本)の中で「**過てば則ち改むるに憚(はばか)ること勿(なか)れ。過ちて改めざる，是を過ちと謂う**」と言っている。どういうことかと言えば、「もし過ちを犯したならば、過ちを改めるのに躊躇(ちゅうちよ)してはいけない。過ちを改めることなく繰り返す、このことが(人として)根本的な間違いである。」という意味である。

孔子の言う過ちとは少し次元が違うが、例えば、テストで漢字や重要語句、計算方法、器具の使い方、英単語などををうろ覚えや勘違いで間違ふ。そのとき、すぐに正さなければ、次のテストでまた間違ふ。試合中、同じようなプレーでミスを繰り返す。余計な一言を言ってしまい、場の雰囲気壊す、嫌な思いをさせてしまう。よく忘れ物、物をなくすなども、対策をとらねば、また繰り返す。ミスの繰り返しで、チームは敗れ、組織や会社なら大きな損失を産む。間違いの繰り返しだけでなく、間違いを認めなかったり、誤魔化したり、言い訳をしたり、人のせいにしたりすることも結局同じことではないか。

世の中に目を転じれば、政界、経済界、芸能界などでも、間違い、よくないことと気付いているにも関わらず、すぐに対処しなかったり、改めなかったりしたために、多くの人が傷つき、不満や不安を抱くような状況になっている。私たちはこれらのことにも関心を持ち、正しい社会の形成や自己の人間性向上に努めていく必要がある。

失敗は誰しもある。失敗してはいけないとは言っていない。人は失敗から学ぶことが多いとも言われるし、失敗することが気付きになることもある。失敗を恐れていては何も出来ない。

「間違いはすぐに認め、改める。」。このことが肝心なことである。先輩としても人としても大切なことである。

○ 錦江中生の活躍！おめでとう！

鹿児島弁マンガ・イラストコンテスト
会長賞 3年 東郷莉乃 宿利原怜音

弥五郎どん中学女子バレーボール大会
第3位 女子バレー部

令和6年度ホットコーナー旗争奪中学校
野球大会
優勝 野球部



第10回中学校女子バレーボール曾於・肝
属地区対抗戦
第3位 女子バレー部



全国書画展覧会
金賞 2年 押領司真菜

JA 共済小・中学生書道コンクール
佳作(半紙) 2年 押領司真菜
佳作(条幅) 3年 菖蒲結七



大隅地区卓球ランキングオープン大会
B級男子シングルス 第3位 福岡汰介
B級女子シングルス 第3位 押領司真菜

大隅地区中学校新人卓球大会
準優勝 女子卓球部



○ いじめについて他校と学ぶ

冬休みに入った12月26日(金)、いじめ問題こどもサミットが開催され、錦江中学校からは生徒会執行部がオンラインで参加しました。このサミットは、いじめについて県内の児童・生徒がさまざまなアクティビティを通して交流し、いじめの防止について考える機会です。

各地区の小・中・高等学校の取組を持ち寄り、意見を交わし、各学校で内容を報告して、いじめ防止につなげていきます。



私たちの周りには様々な人権問題があります。いじめや虐待、インターネット上で他人を悪く言うこと、差別を助長するような情報発信などです。大切なのは「自分がされて嫌なことは他人にしない」ことです。『相手の心の痛みがわかる』このことは、とても大事なことでないでしょうか。一人一人が、思いやりのある行動で、これからもいじめのない明るく楽しい錦江中学校をみんなでつくっていきましょう。

○ 知る、学ぶ、発見する！

1月29日(水)、錦江中被服室にて鹿児島県立埋蔵文化財センターの平美典先生をお招きして、第8回家庭教育学級「遺跡から馳せるかごしまの暮らし」の講演会が行われました。弥生時代の特徴や、地元の山之口遺跡がなぜ貴重な遺跡なのかを最新の調査・研究成果をもとに丁寧に説明いただきました。

今回の家庭教育学級で今年度は最終回になります。ご参加いただいた保護者や生徒の皆さんありがとうございました。



○ 「衣食住」の「食」について

1月28日(火)の午後、中学1・2年を対象に、錦江町の栄養教諭中尾玲深先生をお招きして、「食に関する指導」が行われました。「給食にはなぜ大豆のメニューが沢山出てくるのだろうか？」などの身近な疑問から、食事全般や栄養について学ぶ時間となりました。防寒対策やマスク着用など病気にならない対策をしていても、体内に栄養を摂取しないと体の抵抗力が弱くなり、病気に罹りやすくなってしまふなど、食の大切さを考える時間となりました。

